

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500015		
法人名	社会福祉法人京都南山城会		
事業所名	グループホーム涌出ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町平尾里屋敷69-4		
自己評価作成日	平成30年12月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kajizokensaku.nhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2693500015-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館、京都」1F
訪問調査日	平成30年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の方の交流の場を作り(行事を企画)イベントを通じて、地域ボランティアの協力を得ている。
 ・ご利用者に寄り添い、日々の会話を大切にその方の望んでいる生活を支援できるように努めている。
 ・ターミナルケアを積極的に受け入れて、終期まで看取る事に対してご利用者・ご家族への身体と心のケアを行う。外出を積極的に計画し日々の散歩は勿論、自由な環境であることを大切にしている。
 身体拘束ゼロ、認知症ケアなど、施設全体又涌出独自で学習会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR奈良線榑倉駅を東に2分の地に、古い歴史を持つ「涌出宮」がありその東隣に「グループホーム涌出ぬくもりの里」があります。社会福祉法人京都南山城会が平成19年5月に、小規模多機能型居宅介護事業所と併設して1ユニット9名のグループホームを開設されました。神社や畑・民家に囲まれたのどかな雰囲気を持ち、地域住民との温かい交流の下、恵まれた生活環境の中で過ごされています。一人ひとりの「今何が出来るか」「今何がしたいか」を大切に考え「私の夢や目標」を書いて貼り出し、家族や職員みんなが共有して、実現できるように支援しています。「10年ぶりに実家へ帰ってきた」とか「奈良のデパートへ家族と行ってきた」など、夢を実現されています。日常生活に変化を持てるように、地域の行事には積極的に参加したり、日帰り旅行や外食などの機会も実践されています。日常的には、洗濯物を干したり、たたんだり、隣の神社の参道の落ち葉を掃除したりして、残存機能の維持に努めておられます。本人や家族などの希望に応じて、最後の時を馴染みの「家」で迎えられるような体制も出ています。笑顔あふれる「涌出ぬくもりの里」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お一人ひとりの尊厳を守り優しく丁寧で分かりやすいケアに努めている。事業目標も事務所内に掲示し毎朝、朝礼・申し送り時に確認し合わせてサービスの向上に努めている。	法人の理念に基づき、グループホームの年度目標を「ご利用者の『元気な今だからできること』の実現を支援する」「日々の生活の充実を図り、笑顔で元気な食生活が送れるように支援する」として、全職員が周知して日々の支援に努めている。残存機能を維持できるように、生きがいを持てるような支援を心掛けている。半年毎で振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(納涼祭・ラジオ体操敬老会)に参加したり施設行事計画し、地域に向けてポスターやチラシを配布するなどして参加を促し、地域の一員として交流している。	隣組には入っていないが、地域住民とは日常的に交流している。散歩の途中で畑の野菜を貰ったり、洗濯物を干している住民が手を振ってくれたりしている。地域の行事に参加したり、事業所の行事を案内したり、双方向で交流の機会を持っている。隣の神社の宮司から「おさがり」を届けて貰ったりもしている。地域からボランティアとして来所があり、一緒に楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度認知症カフェを開催している。認知症を正しく理解して頂くことや偏見をなくし認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できる地域作りに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し写真を見て頂きながら行事や普段の様子を報告している。事故・ひやり報告を行い事故再発防止に努めている。地域での困りごとなど意見を頂き、地域での困難ケースの相談も行っている。	会議には、家族や地域長・副地域長・アドバイザー・民生委員・行政の担当職員・包括支援センター職員・傾聴ボランティアなど地域の状況を把握している立場の方々が参加している。事業所からも、本部役員や管理者・職員が参加して、事業所の状況報告と共に情報・意見交換を行っている。特に、ヒヤリハットや事故については詳しく説明し意見をもらって改善につなげるように努めている。	

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や認知症カフェ、地域ネットワーク会議などに参加し、日々の情報交換をして協力体制を築いている。	行政の担当職員や包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しているため、日常の状況を把握して貰っている。夏の「涼やかスポット」や「認知症カフェ」など行政と連携して協力体制を確保している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で月1回の身体拘束ゼロ委員会の会議に参加。年1回の施設のパトロールを抜き打ちで実施している。職員は年2回のアンケートを実施して行動や確認を行い身体拘束ゼロのケアを実践している。	「身体拘束をしないケアの取り組み」を法人全体で実践している。指針を作成し、委員会で検討する機会を設け、職員には、研修やアンケートを行い身体拘束をしないケアの認識を確認して実践につなげている。特に、入居者の行動を抑制するような言葉かけや言葉づかいに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ委員会のアンケートで事故及び言葉の拘束等がないか確認している。委員会に置いても見守りパトロールも行っている。朝の申し送りでも毎月、目標を掲げ日々の中で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を活用している方はいないが、地域の方々と認知症カフェの中で勉強会に参加し他の専門職と情報共有するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・契約書を説明し了承を得た上で契約している。質問や不明点があれば説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。行事、運営推進会議など来設せられた際に随時意見や要望を聞いている。また、年一回満足調査を実施している。日頃から家族様には利用者の状況報告は密にし、ご意見や要望を伺うように努めている。	利用者からの要望などは、日常生活の中で職員が聞き取っている。家族などからは、来所時や運営推進会議で聞き取る機会としている。また、家族会は、コミュニティーセンターで併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で開催し情報・意見交換を行っている。出された意見や要望は、検討事案として改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や班長会議にて意見や提案を検討する機会がある。年2回、総合施設長や管理者面談があり何でも話せる関係に努めている。	半期で自己評価を実施しており、その結果を踏まえて管理者・総合施設長が個別面談して、目標達成や行事・外出方法など話し合っている。職員が気軽に「思い」を話せるように心がけている。	

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己チェック評価する機会がありそれをもとに総合施設長と管理者との面談もあり意見や要望を相談できる環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や法人内の異動で配属になった職員には振り返り日誌を通じて疑問や次の日への目標を持ち学びの機会を設けている。法人内外への研修に参加しスキルアップを図っている。涌出においてもケアの勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で委員会や行事で交流を図っている。施設内外の研修に参加し同業者の方々と交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者・ケアマネが本人と話し合う時間を設け本人の考え不安等を聞き安心して頂けるに努めている。入所後は24時間シート私の姿シート・アセスメントを使用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では特にご家族に困っていること不安や要望をお聞きし、入所後の様子を伝え密に連絡を取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を知りまたは、必要とされている支援を見極め、サービスも含め対応に努めている。小規模のご利用者、馴染みのある方が利用されている際には交流をして頂いたり外出を一緒にしたりと関係を維持できるように支援している。		

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には掃除・食事の準備や片付け・洗濯等の家事を手伝って頂き日常生活においてても、ご自分でできることはして頂いている。できることや本人のしたい事をお聞きして役割を持ち共に助け合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様にお手紙にて写真等でお知らせしている。日帰り旅行や行事など事前にお知らせしご本人とご家族と一緒に過ごして頂けるようにしている。私の夢や目標をご家族に協力して頂き共に支えていけるように協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や地域ボランティアに来て頂き様々な形で交流できるような環境作りをして関係が途切れないように努めている。又、地域へ出掛けている。	地域の行事に出かけたり、友人や知人などの来所があり、交流の機会を持っている。馴染みの美容室に行ったり、回転すしを食べに出かけたりして馴染みの関係を大切にしている。併設の小規模多機能の利用者とも交流の機会を持ち、新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し配慮した座席を設定している。ご利用者同士が支え合いながら声掛けしながら過ごされている。役割分担を持って行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前にご利用されていた利用者のご家族様が清掃や初釜行事のボランティアに来て下さり関係性を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションを取り暮らしの希望や思いを聞き取っている。聴き取りの難しい方については様子からくみ取りケアプランに繋げている。毎月の職員会議にカンファレンスを実施している。	入居者一人ひとりの「思い」を聴きとるように努めている。「私の夢や目標」から「実家に帰りたい」「百貨店に行きたい」などを引き出し、実現に努めている。また、好きな事や得意な事の支援を行っている。書道や手芸クラブで作品作りを楽しんでいる。一人ひとりの生きがい作りに反映させている。	

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人の思いやご家族様からの生活歴や暮らし方の希望を聞いて情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の姿シート24時間シート、アセスメントシートにて現状把握に努めている。日々の様子については申し送りノートや朝礼時に報告し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やケアマネによる日々の評価をもとに職員会議カンファレンスにて話し合っている。状態に変化が無かった時は半年ごとにプランを見直しをしている。	担当介護職や介護支援専門員が、日々の支援の状況をまとめ、ミニカンファレンスを行い評価している。その結果必要に応じて、家族や医療関係者などの意見も反映させて実情に即した介護計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容はタブレットにて記録を行っている。介護計画の見直しはライフサポートシートを利用して評価しプランを見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状態やニーズに応じ外食・外出・買い物・通院の支援を行っている。その人の夢の実現に向けた取り組みを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道・手芸教室・傾聴ボランティア等に施設に来て頂きご利用者と接して貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の往診を2週間～4週間毎に受けている。夜間の緊急対応時なども普段から関係作りに努め協力いただいている。	入居前からの主治医の往診を定期的を受けている。日常的には、併設の小規模多機能の看護職が健康管理を担っている。また、必要に応じて看護職から主治医の指示を受ける体制もある。希望により訪問歯科医に治療を受けている。	

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握し小さな変化でも対応できるように1日1回フロアに入り健康管理をしている。また、医療に関しても主治医との情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まるとサマリーを作成し病院に提供している。退院時にはカンファにて参加、退院サマリーを頂き必要に応じ情報交換も行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアの取り組みについて重要事項などで説明し同意を頂いている。ご家族さま、Dr・NS、職員と話し合いチームとして取り組める体制作り。その方に合った終期をすこして頂けるケアを行っている。	事業所として、家族などや本人の意向を尊重して希望があれば、終末期の支援をする体制がある。職員には「看取りについて」の研修を行っている。最後の時には、家族などの付き添いの下で見送れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会を受講している。また、施設にはAEDを設置しており使用方法など非難訓練時など地域の方などと一緒に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をご利用者とボランティア、地域住民参加型で実施している。	職員や入居者と共に、地域住民・ボランティアが実際に即した避難訓練をしている。さらに、DVDを活用して研修も行っている。消防署への通報方法もファイルに入れ、有事の場合適切に対応できるようにしている。備蓄も必需品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会でアンケートで振り返りを行っている。涌出で毎日目標を決め朝礼で確認している。	一人ひとりの思いや気持ちを大切にしている。「その人の人生はその人に決めて貰う」を信条にして日々の支援に努めている。入居者の行動を抑制するような言葉遣いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を直接お聞きし難しい場合は普段の様子からくみ取れるようにしている。又、自己決定できるような工夫を行っている。		

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせ「待つ介護」を心掛けています。また勉強会を通し学びの機会を設けている。職員会議で情報共有し「その人らしい暮らし」を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後化粧水をつけたり朝に化粧をされる方もおられる。また、外出、日帰り旅行や敬老会に参加する時は薄化粧をしたりお洒落を楽しんで頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつレクやお楽しみ食事会など利用者と食べたい物をお聞きし共に作って召し上がって頂いている。また外食なども行っている。	食材は、専門業者から届けて貰って、職員と入居者が一緒に手作りしている。野菜の皮むきや得意な事をして貰っている。日常生活に変化をもたらせるように、マクドナルドや回転ずしの外食も好評になっている。定期的に、お楽しみレクリエーションとして、オムライスやバラ寿司を作る機会も作っている。	
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合チェック表で確認し水分の不足と思われる時に好みの飲み物など摂水できるようにしている。（コーヒー・紅茶・ジュースなど）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケアの声掛けを行い不可能の方や不十分な方には職員が介助している。必要な時は家族と受診したり往診で治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合チェック表から個々の排泄パターンを把握し声掛けやタイミングを見て誘導している。紙パンツ・パットの使用も尿量によって使い分けている。	排泄一覧表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、適宜声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。排泄用品も個人の状況に合わせて、組み合わせを工夫している。昼間と夜間の使い分けも行って、気分よく過ごせるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フルーツや乳製品を提供、水分摂取の少ない方には声掛け、多目に水分補給し個々の状態に合わせて調整ケアを行っている。天気の良い日には散歩に出掛けている。朝の会などで体操など行い身体の動かす機会を作っている。		

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を目安にしているが時間や頻度等ご本人に合わせて入浴して頂いている。拒否が会った時はなどは気分転換に散歩後に入浴して頂くなど工夫を行っている。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでもらっている。	一人ひとりの入浴方法(使用座具・手すり・浴槽の出入り時の注意事項・湯温度の好みなど)を「ご利用者の入浴方法」として記載し、統一した入浴支援が出来るように工夫している。入浴拒否のある方にも、無理強いしないで気分転換を図り入浴につなげている。季節湯も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や寝具の調整を行いゆっくりと眠れる環境作りを整えている。入床、起床時間は個々の生活ペースに合わせて調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々にファイルし重要な事は申し送りを行い把握できるように努めている。服薬時は別の職員が確認を行い職員は呼称確認をしてから飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、配膳、掃除、洗濯たたみ、家事など役割、脳トレ、プリントの答え合わせなど個々の経験を活かし活動できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事の参加や畑の世話や日常の買い物に同行して貰う。近所の散歩をしている。「私の夢や目標」を実現できる家族様の協力を得ながら個別に外出支援を行っている。	隣接する神社の参道は、鬱蒼とした樹木に覆われていて、夏でもお参りや散歩が出来る環境がある。また、周囲には畑があり日常的にのんびりと外に出かける事が出来ている。個別に「夢や目標」を書いてもらって実現できるように、家族等の協力を得て支援している。映画村や水族館に日帰り旅行をしている。日常生活に変化を持たせて、潤いのある生活支援ができています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はなく物品購入が必要な時はご家族様に確認ご立替購入している。外出時に自身で欲しい物を購入して頂ける様に支援している。		

京都府 グループホーム 涌出ぬくもりの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話・手紙・ハガキを出されることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアから見える畑では季節の野菜や花など利用者と一緒に育てている。季節に合わせて壁画なども飾っている。また、利用者がモップや手すり拭きなど一緒に行い清潔にして生活環境を整えている。	玄関を入ると入居者や利用者の作品や花が飾られて温かい雰囲気がある。リビングは南面に大きな窓があり、外の景色を存分に眺められる。照明は、和風のベースライトで落ち着いた風情が感じられる。リビングからテラスに出て、ティータイムが楽しめるように、ガーデンテーブルとチェアが配置されている。不快になるような音や臭いもなく、四季の移ろいを感じられる空間が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたりフロアに個人のイスを置きゆっくりとくつろげるスペースを設けている。くつろげる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は馴染みの家具等持って来て頂くよう声掛けしている。居室前に木の札を掛けている。	居室は、広くゆったりとした生活空間がある。洗面台・クローゼット・ベッド・家具など使いやすように配置されている。日中はほとんどリビングルームで過ごされているが、自室で読書をしたり日記を書いたり、思い思いの過ごし方をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所仕事洗濯、掃除など家と変わらない生活を送って頂ける支援をしている。ハード面では手すりをつけバリアフリーになっている。トイレの場所もわかりやすく表示している。		